

減災のための目標(案)

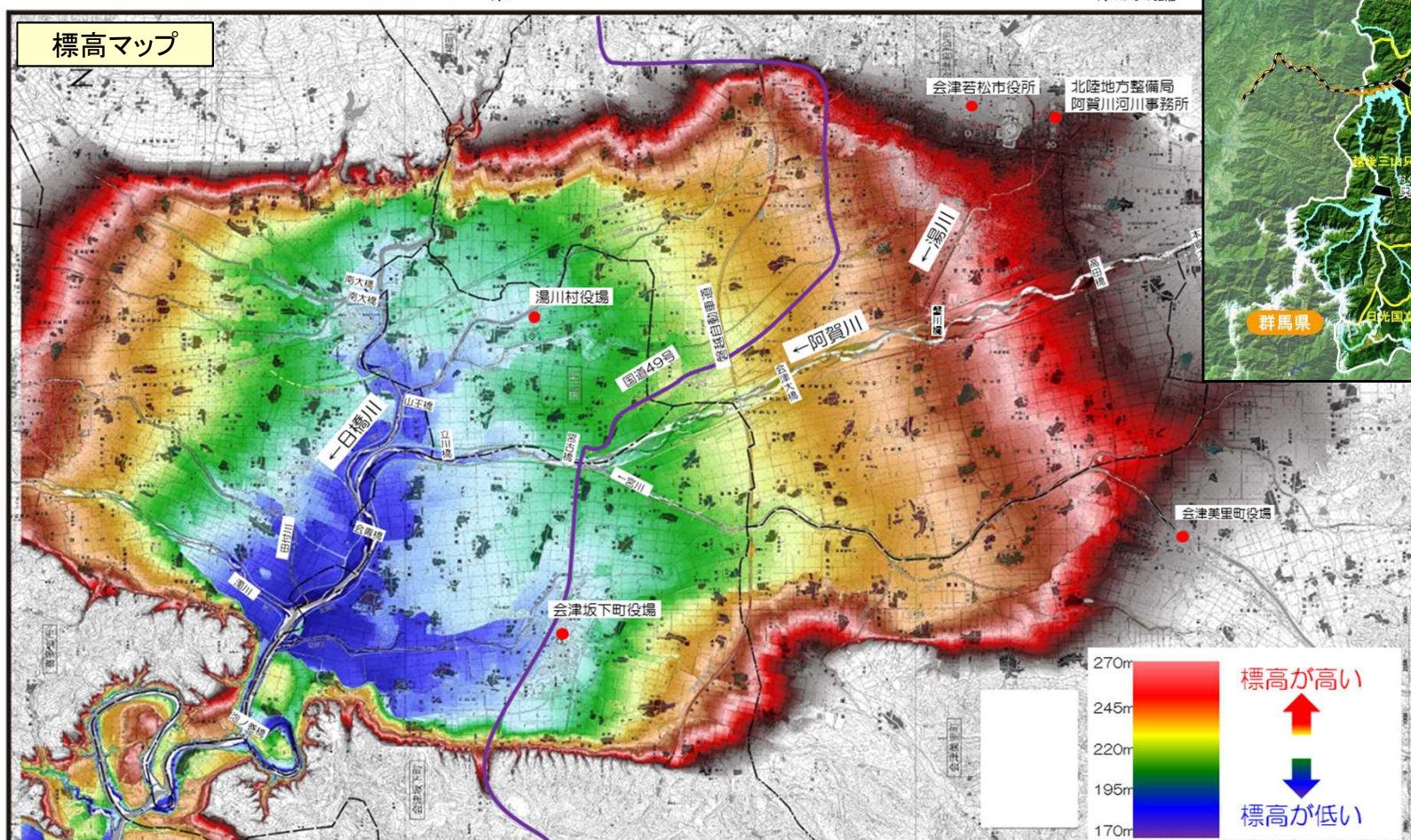
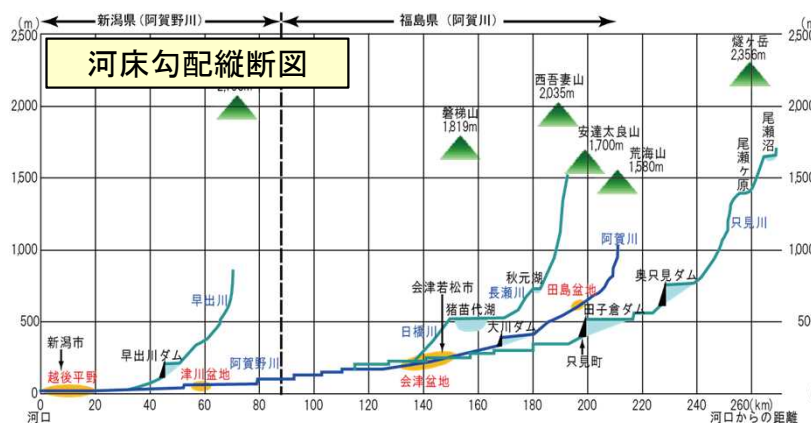
阿賀川の主な特徴

- ① 馬越頭首工から宮古橋付近までは扇状地が広域に形成され地形勾配も急である
(ひとたび氾濫すると、氾濫水が広範囲に短時間で拡散)
- ② 阿賀川下流部は狭窄部の存在と会津盆地の最も低い箇所に位置することから貯留型の氾濫形態である
(ひとたび氾濫すると、上流からの氾濫水が集まって長時間滞留し、浸水深が深くなる)
- ③ 阿賀川上流部は、急流河川であるため洪水の流れが速く、河岸や堤防を侵食するおそれがある
(侵食等による水害リスクが高い箇所が存在)
- ④ 氾濫域には、会津地方の経済の中心的役割を持つ、地方拠点都市である会津若松市の市街地が形成されている
(浸水時に深刻な被害)
- ⑤ 会津地方における大規模出水は、台風性の降雨による洪水が多い
(台風の通過に伴い、短時間に降雨が集中)

阿賀川の主な特徴

◇馬越頭首工から宮古橋付近までは**扇状地**が形成されている。ひとたび氾濫すると、氾濫水が**広範囲に拡散**する。

◇狭窄部の存在により阿賀川下流部は**貯留型**の氾濫形態である。氾濫すると、上流からの氾濫水が集まって**長時間滞留**し、**浸水深が深くなる**。



◇上流部では標高が高く、日橋川合流点より下流にかけて標高が低い。

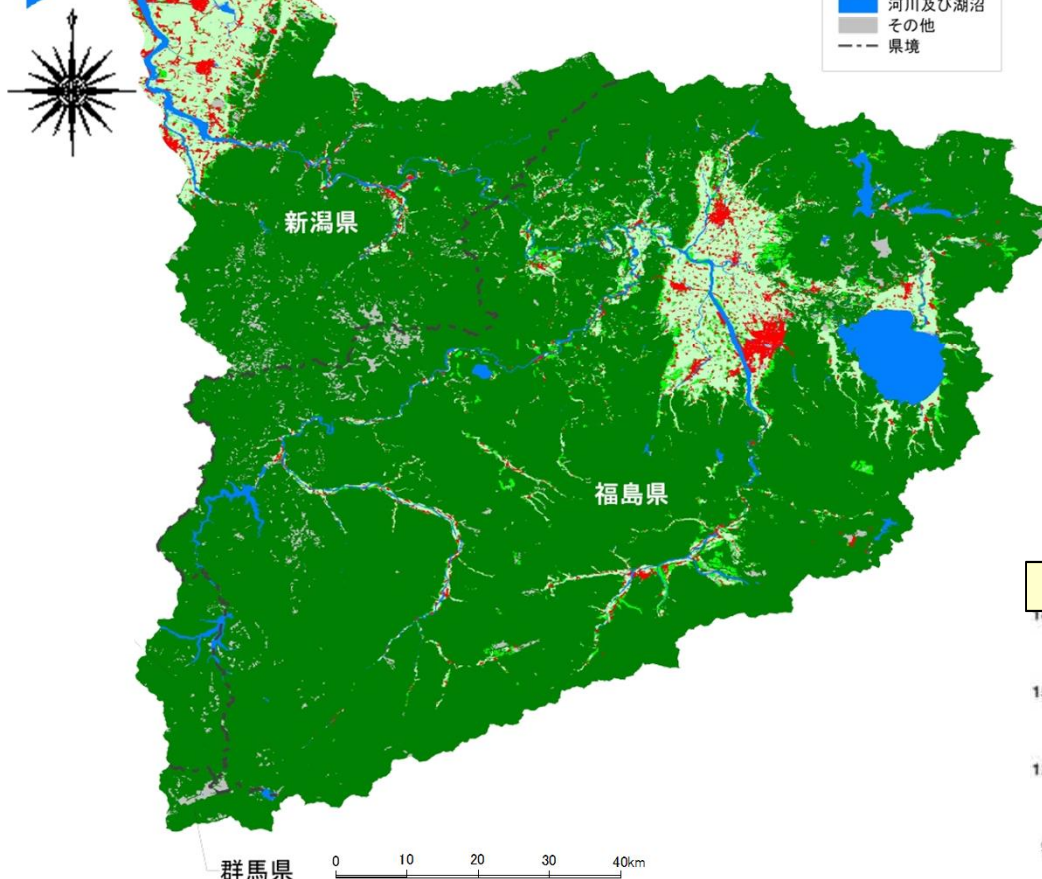
阿賀川の主な特徴

土地利用状況図

日本海

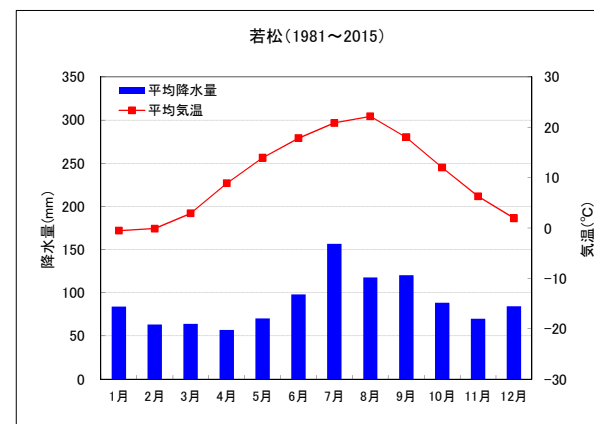
凡 例

- 田
- 畑
- 森林
- 市街地
- 河川及び湖沼
- その他
- 県境



平均降水量

- ◇山科における降雨は梅雨期から台風期に集中
- ◇既往大規模出水は、**台風性の降雨**による洪水が多い



山科		
年	流量 (m ³ /s)	要因
S33	3,276	台風性
S34	2,098	台風性
S41	3,166	台風性
S53	1,612	前線性
S57	3,281	台風性
S61	2,346	台風性
H 5	2,361	台風性
H10	2,352	台風性
H14	3,343	台風性
H16	1,602	前線性
H23	1,566	前線性
H27	2,239	前線性

※H27年度流量は暫定値のため今後変更になる可能性がある

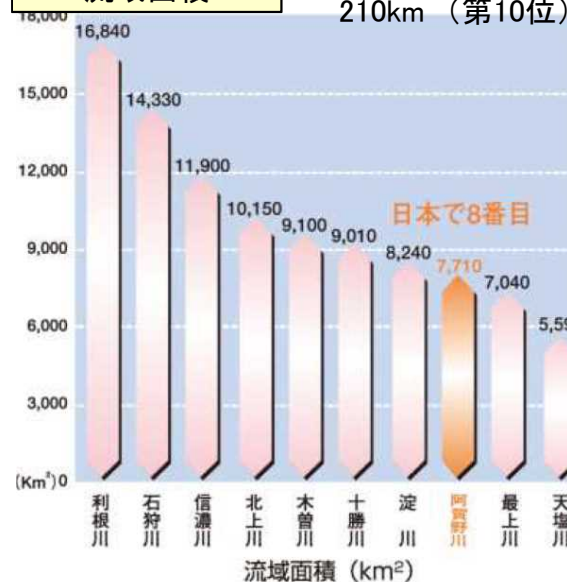
- ◇3県にまたがる**広大な流域**と**長大な流路**を持つ日本有数の大河

流域面積

- ◇流路延長
210km (第10位)

流路延長

- ◇流域面積
7,710km² (第8位)

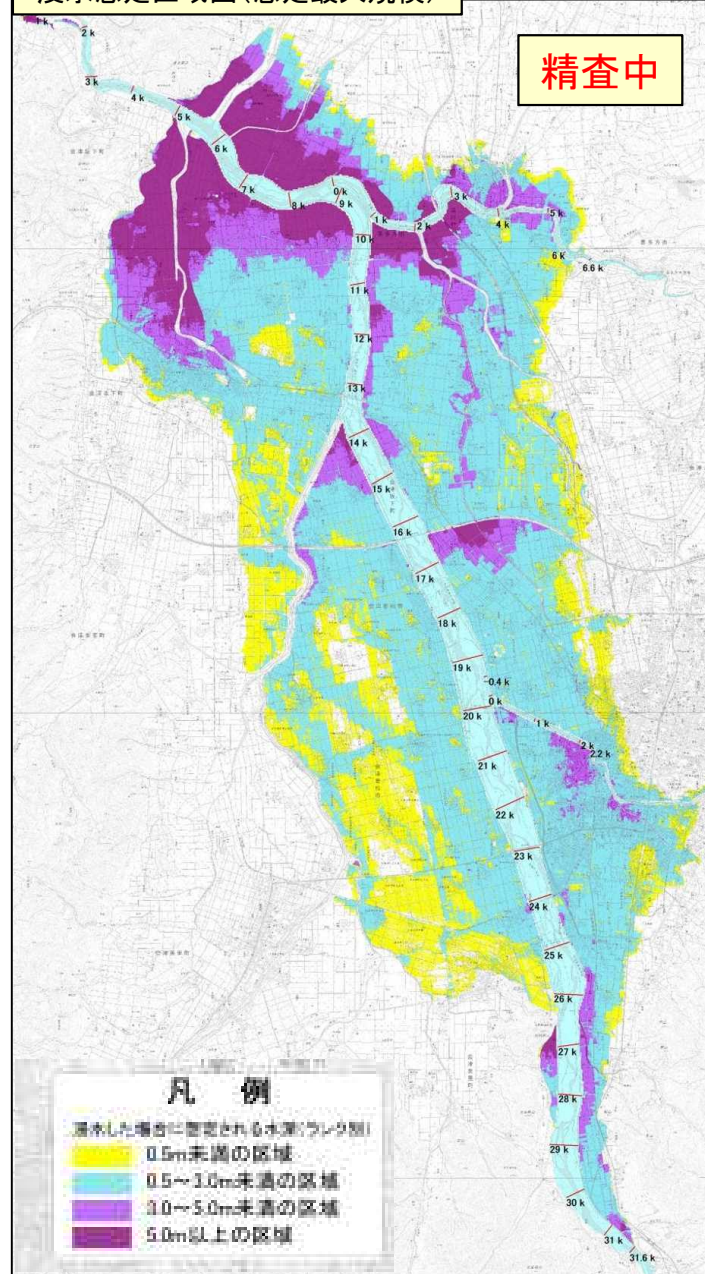


- ◇地方拠点都市の会津若松に、**市街地が形成されている。**

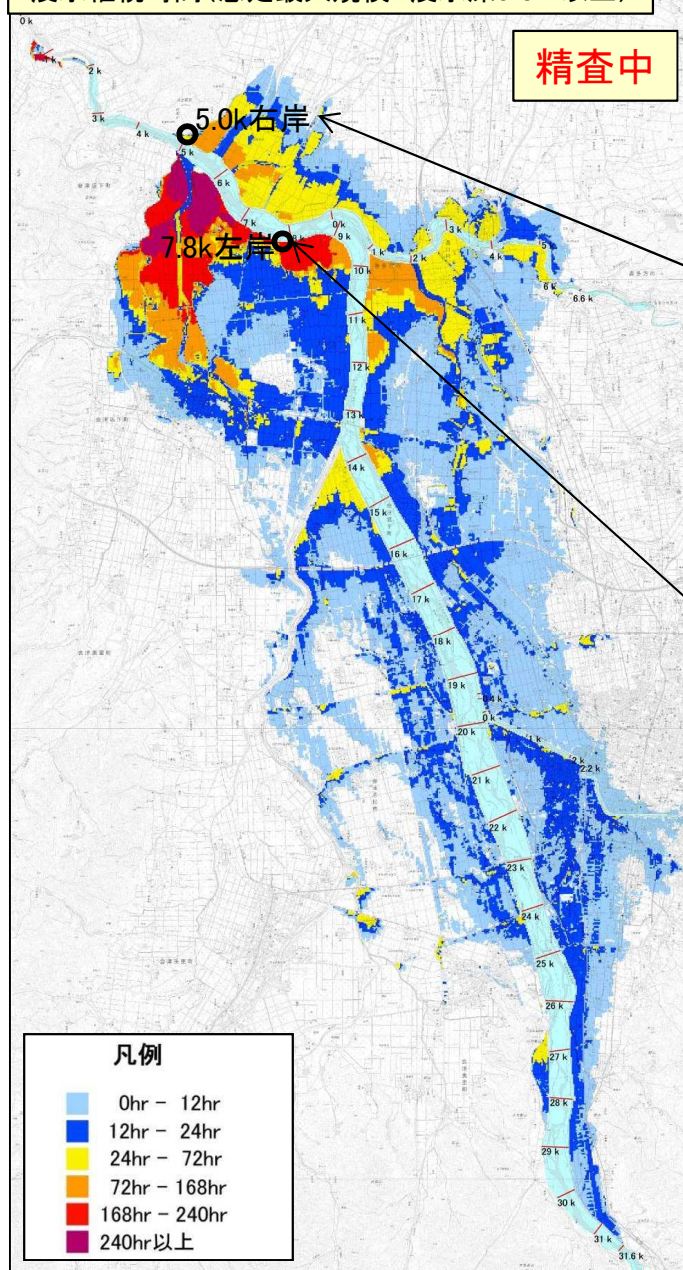
阿賀川の主な特徴

- ◇ 馬越頭首工より下流では**扇状地**が形成され、ひとたび氾濫すると、氾濫水が**広範囲に拡散**。
- ◇ 下流部では貯留型浸水により、浸水深が5m以上の区域もある

浸水想定区域図(想定最大規模)



浸水継続時間(想定最大規模 浸水深0.5m以上)

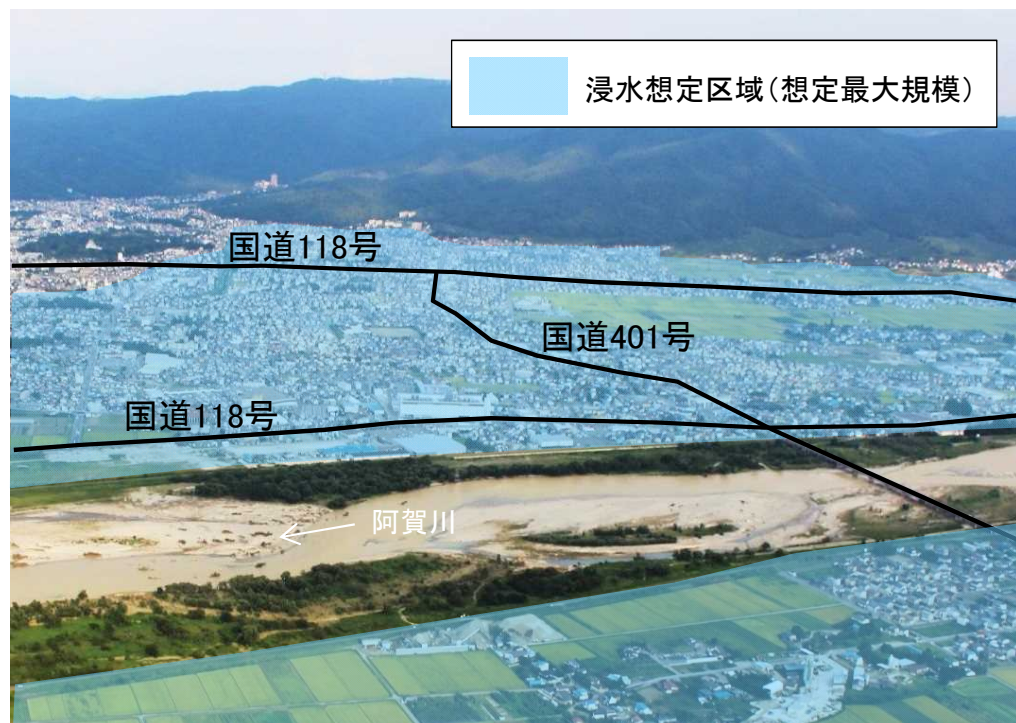


- ◇ 5k～9k周辺では左右岸ともに浸水深が大きく、自然背水が困難なため、氾濫流が吐けにくい。



阿賀川の主な特徴

- ◇ 馬越頭首工より下流では扇状地が形成されており、地形勾配も急である。
ひとたび氾濫すると、氾濫水が広範囲に拡散する。
- ◇ 狭窄部の存在により阿賀川下流部は貯留型の氾濫形態であり、浸水深が5m以上の区域もある。ひとたび氾濫すると、上流からの氾濫水が集まって長時間滞留し、浸水深が深く、また自然背水が困難なため氾濫流が吐けにくい。
- ◇ 河川の改修は、上下流バランスを保ちながらの堤防整備を実施しているため、堤防高が不足している箇所や堤防の漏水や侵食など越水以外にも水害リスクが高い箇所が存在している状況にある。
- ◇ 地方拠点都市の会津若松に、市街地が形成されており、浸水時に深刻な被害を被る。
- ◇ 急流河川であるため洪水の流れが速く、洪水時に水衝部が発生して河岸や堤防を侵食するリスクがある。
- ◇ 阿賀川における大規模な出水は、台風性の降雨が多い。



安全な場所への確実な避難

住民の命を守るために、阿賀川からのはん濫について、水位上昇および氾濫流の到達時間の周知・理解や、浸水深さの大きい場所では浸水区域外への水平避難など迅速かつ確実に安全な場所に逃がす。

社会経済被害の最小化

迅速な排水活動を実施し、基幹交通、緊急輸送路である国道49号、118号、401号などを早期に機能回復させ、日常生活をいち早く取り戻す。

■5年間で達成すべき目標

氾濫流の流れが速く広範囲に被害が拡散する特性と洪水の吐けにくい盆地の氾濫特性を踏まえ、阿賀川の大規模災害に対し、

『安全な場所への確実な避難』『社会経済被害の最小化』
を目指す。

※大規模水害・・・想定しうる最大規模降雨に伴う洪水氾濫による被害

※安全な場所への確実な避難・・・浸水深さが2階以上(3.0m以上)、家屋倒壊等想定区域内では水平避難が必要。

それ以外の浸水区域でも浸水深に応じた水平避難、垂直避難が必要。

※社会経済被害の最小化・・・大規模水害による社会経済被害を軽減し、早期に再開できる状態。

■上記目標達成に向けた3本柱の取組

阿賀川などにおいて、河川管理者が実施する堤防整備等の洪水を安全に流す対策に加え、以下の取組みを実施

1. 計画の堤防断面に対して、幅が不足する**弱小堤区間の解消**
2. 阿賀川の大規模水害における特徴を踏まえた**避難行動の取り組み**及び**地域防災力の向上**
3. 一刻も早く社会経済活動を回復させるための**排水活動の取り組み**

※阿賀川など・・・取組は直轄管理区間の他、洪水氾濫域の重複する支川や上流指定区間の河川管理者との連携が不可欠であり、国・県管理の指定区間・支川等を含む。